

IMF サーベイ

ラガルド専務理事、 「三極化」した世界経済回復の 「フルスピード化」への転換を訴える

2013年4月18日



ラガルド氏：「危機の影響を最も受けた人々を保護する必要があり、調整は可能な限り公平かつ公正でなければならない」（写真: Stephen Jaffe/IMF）

- 相互関連性が強いことから、連携はかつてなく重要
- 相互に密接した世界では、不均一な世界経済の回復では不十分
- フルスピードの回復、幅広く「カスタマイズ」された政策措置が不可欠

国際通貨基金（IMF）のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、各国が政策面で幅広く適切に調整した措置を採ることで、不均一回復を超えた「フルスピード」の回復を達成できると述べた。

2013年のIMF・世界銀行の春季会合で報道陣を前にしたラガルド専務理事は、現在のスピードが「三極化」した世界経済は、均衡ある持続的な成長の促進のためには十分ではないだろうとの見解を示した。現在の回復スピードは、順調な国・地域、改善途上にある国や地域、依然達成すべき課題を抱えている国や地域と三極化されている。

ワシントンでの[春季会合](#)の開幕にあたり記者会見に臨んだ同氏は「確固として持続的そして均衡のとれた成長のみならず包摂的でグリーン開発に深く根付いた成長と整合的なフルスピードの回復こそが我々に必要なものだ」と述べた。春季会合にはIMF加盟188カ国の経済政策担当者をはじめ、政府関係者、市民社会団体、ジャーナリスト、学界や民間部門からの参加者などが集う。

[同会合の期間中](#)、各種セミナー、地域別ブリーフィング、世界経済、国際開発、世界の金融市場に関する記者会見などが予定されている。

カスタマイズされた政策

ラガルド氏は、世界経済のフルスピード化には、上記3グループそれぞれで、政策対応を適切に調整する必要があるだろうと強調した。なかでもIMFは、相互関連性が高まっている世界経済を通して伝わる波及効果に最も注目するという。

同氏は「全てにおいて、引き続き連携が不可欠になっている。IMFはそもそもこれ故に創設されたのであり、相互の結びつきが極めて高い世界において、これはかつてないほど重要になっている」と述べた。

ラガルド氏は、春季会合を前に、スピードが三極化した世界の経済回復について警鐘を鳴らしており、今回もこれについて繰り返し注意を促した。世界経済の回復のスピードは、順調な国や地域（主に新興市場国・地域と途上国）、改善途上にある国（米国、スウェーデン、スイスなど）、そして依然達成すべき課題が残っている国や地域（ユーロ圏、日本など）と3グループに分類される。

- **第1速グループ：新興市場国・地域**は、政策余地を再構築し金融規制と監督を強化する必要がある。一方、**低所得国**は、これまでの成功を足場に、インフラや社会的ニーズへの対応など将来に投資するべきである。
- **第2速グループ：米国**は財政の崖をкаろうじて回避することができたが、財政調整のペースを修正する必要がある。現段階ではより小規模だが質の高い調整を行い、後に集中して行う必要がある
- **第3速グループ：ユーロ圏**については、政策当局は短期間ながらも多くを成し遂げた。現在の優先課題は、毀損した銀行システムを修復し銀行同盟を推進することである。日本では、積極的な金融緩和の枠組みが先日発表されたが、これは前向きな一歩である。しかし、債務引き下げのためのより積極的な計画及び経済を加速するための構造改革が必要である。

ラガルド氏は政策当局に対し従来のリスクにも対処するよう訴えた。これらリスクは完全には解決しておらず、金融部門改革という「仕事を片付け」、世界的不均衡の改善を図るとともに、成長、雇用、社会的公正を積極的に追求するよう求めた。

「危機の影響を最も受けた人々を保護する必要がある、調整は可能な限り公平かつ公正でなければならない」

また、同氏は、188加盟国への貢献を重視するとのIMFの立場を強調するとともに、世界経済の変化に合わせてIMFは改革を行っていると述べた。「我々がこれからの世界を映し出す鏡であることが非常に重要だ」

記者会見の冒頭でラガルド専務理事は、多国間主義から南スーダンといった幅広いトピックについて見解を述べた。

- **多国間主義**。同氏は、危機を通し、各国政府は世界の分断を回避するためにあらゆる努力を払ったと述べた。地域貿易協定といった特定の形を取った地域主義が、特定の国グループ間の貿易促進に貢献できるとし「今後も連携が不可欠である」と述べた。
- **世界的不均衡**。ラガルド氏はIMFは現在、対外的な不均衡やずれを新規の「対外部門の安定性に関する報告書」で検証していると述べた。「ますます

相互関連性が高まっている世界経済の中を通り抜けて進む波及効果を明確にすべく努力を重ねている」

- エジプト。ラガルド氏は、IMFは支援にコミットしていると強調した。外部からの支援が果たす役割があるとの考えを示した同氏は「エジプトは様々な脆弱性にさらされており、外貨準備もかなり失った。成長軌道にあるものの、金融や経済の観点から見て状況が安定していれば、成長率は間違いなく現時点よりはるかに高いだろう」と述べた。
- 英国の財政再建へのアプローチへのIMFの見解に関する質問に対してラガルド氏は「これまで何年にも渡ってIMFは、この政策の結果や影響を可能な限り密接にモニタリングしてきた。我々はこの政策を支持する。これは我々が繰り返し述べてきたことだ。しかし、同時に、次回の4条協議の内容についてここで早計に判断するつもりはないが、成長が減速する、或いは成長率が極めて低い場合は、ペースを緩めることで調整を行うことを検討すべきだともここ2~3年で繰り返し述べてきている。これは目新しいことではない」と述べた。
- ラガルド氏は、スーダン及び南スーダンの両政府による安全保障と石油収入の共有に関する合意の先の発表を歓迎した。

関連リンク

- [ビデオを見る](#)
- [春季会合ウェブサイト](#)
- [最新の世界見通し](#)
- [国際金融システム](#)
- [ラガルド：スピードが三極化した回復](#)